

第7回 都市計画道路殿町羽田空港線ほか
道路築造工事に係る河川河口の環境アドバイザー - 会議

(令和元年7月4日開催)

主な意見、指摘事項と対応について

1. 環境対策の現況報告

意見・指摘事項	対応
仮置き表土および既存干潟の土質性状を比較・検討した結果、現時点では干潟表土の材料として適した状態になっていると評価できる。 今後、埋め戻し時に再度仮置き土の土質性状を確認し、最終的に表土として適正であるか確認すること。	埋め戻し時に再度仮置き土の土質性状を確認し、最終的に表土として適正であるか確認します。

2. 令和元年度春季定期環境モニタリング調査実施状況報告

意見・指摘事項	対応
<水質・水象> ロガー計による連続測定中に上層と下層で下げ潮時に塩分が急激に低下する事象の原因が、センサーに気泡が巻き込まれたとされているが、プロセスが不明である。 「気泡」とはせず、「機械的トラブル」とすること。	ご指摘の通り表現を修正しました。
<干潟地形・広域調査> 維持浚渫後の干潟地形の調査では、資料には浚渫位置周辺の0.6Kpや0.7Kpで浚渫による水深の変化が確認できるように記載すること。	浚渫後の水深変化が確認できるように資料を作成します。
<干潟地形・干潟調査> 側線No.11に元々澇はなく、H29.10月の台風後に一時的に出来た排水路のようなものと考えべきである。 「澇」という表現は誤解を与えるため、「干潮時の排水路」などに改めた方がよい。	ご指摘の通り表現を修正しました。
<魚類> 表4-1魚類重要種出現状況(春季)に、ヌマチチブの生活型が「汽水」と表記されているが、淡水域にも生息しているのを確認すること。	確認したところ、ヌマチチブの生活型は両側回遊でしたので資料を修正しました。

意見・指摘事項	対応
<p><底生生物・広域調査> 底質の結果は円グラフでは経時変化が分かりにくい ため、棒グラフにした方がよい。 また、ヤマトシジミとシルト粘土分の関係がわかるよう な棒グラフを作成してはどうか。</p>	<p>棒グラフにするなど経時変化がわかり やすいように表現方法を検討します。 また、次回はヤマトシジミとの関係が わかるような棒グラフを作成します。</p>
<p><底質> 底質は現在も H30 の出水の影響が残っている位置もある が、川の流れの影響により変化している位置もある。 底質の傾向等の基本情報を整理するため、面的に変化が 確認可能な図を作成してはどうか。</p>	<p>面的な変化が確認できるような表現方 法を検討します。</p>
<p><コアマモ> コアマモ確認位置の土質のグラフの色分けが他のページ と違うため、修正すること</p>	<p>ご指摘の通り修正しました。</p>

以上